

〔平成22年7月23日〕

# ボトルキャップ由来 ロケット燃料を開発

「ペットボトルのキャップを宇宙に向かうロケットの燃料に」。安城商工会議所（石川正義会頭）は、北海道で開発が進められている民間発のロケットの搭載燃料に採用してもらうため、同市内の事業者らがペットボトルキャップ由来の固形燃料を開発した。リサイクル材を原料に工業ブランドを全国に発信する事業の一環で、子供たちに夢を与える製品として期待がかかる。（安城）

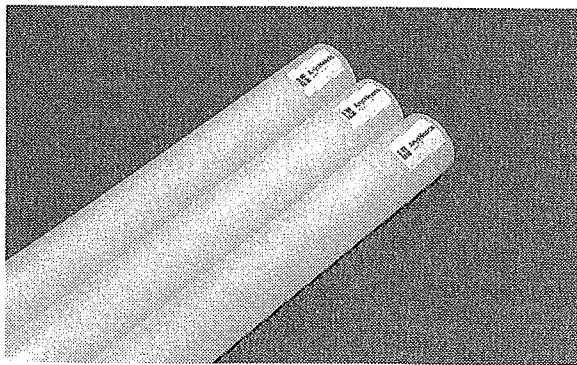
同会議所は地域ブランド創出事業「アンジヨウ・ハーツ」を実施している。安城市が全国有数の環境都市という特性を生かし、市民や地域の団体が収集し

## 安城商工会議所 市内業者スクラム

を原材料に、環境配慮型の工業ブランド創出を目指している。原材料は、リサイクル向けに国内で回収された同キャップの約3%が安城市に集積していることに着目した。現在、市内20社が同事業に参画し、さまざまな製品化に向けた取り組みを行っており、今回の固形燃料もその一環。搭載燃料の採用を目指すのは、特定非営利

## 北海道の民間事業へ提案

活動法人、北海道宇宙科学技術創成センター（HASTIC）が中心となって、北海道大学など道内の大学や企業によって開発が進められている「CAMU I式 ハイブリッドロ



安城市内の事業者が開発したロケット用の固形燃料

ケット」。低価格、安全、小型、環境負荷の低さなどが特徴だ。全長は5.5ほど。すでに打ち上げ実験も行っている。

現在、燃料にはポリエチレンを採用しているが、同会議所の同事業に参画する事業者が同キャップの中から透明なものを選び、ポリプロピレンの固形燃料を筒状にして開発。キャップの色の識別は、障がい者が協力した。1本の全長は1.18メートル、太さは7.5センチ。これをHASTICに提供。

ロケットの打ち上げに十分な推進力が得られるか、今後、燃焼実験が行われる。採用されれば、安城発のリサイクル燃料が宇宙に飛び立つ。